JC LIFE

2023年 10月号

結束 自分らしさを忘れずに

一般社団法人尾道青年会議所 http://www.ojc.or.jp/ 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook:http://www.facebook.com/isojcnow

9月例会

9月15日（金）尾道国際ホテルにて、テーマを「夢の力」と題して、9月例会を開催しました。

講師に元マツダ株式会社、NDロードスター開発主査の山本修弘氏をお迎えし、『夢なきもの歓びなし』というテーマのもとご講演いただきました。

講演では、夢を実現させるためにしてきた努力や仲間と共に歩んだプロセス、またそのご経験から感じた夢を持つ大切さについてご講演頂きました。

講演後には、山本先生の夢の結晶であるNDロードスターの現物を前に、トークコーナー・質疑応答を実施し、実際に先生が努力し、開発された成果物に触れながら、改めて夢を持つことの大切さを考えることが出来ました。

9月例会にご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

未来輝く青少年育成員会一同、最後まで全力で突き進んでまいります。

（記事：未来輝く青少年育成員会 西垣内 健人）

ブロック大会

9月10日（日）大竹の地にて、第53回広島ブロック大会in大竹が開催されました。

「つながる笑顔 ～絆を結び最高の思い出を～」と題して実施された今大会では、各種式典・フォーラム・たからいち等、様々な事業が行われ、尾道青年会議所からも大勢のメンバーと卒業予定者が参加しました。

その後、会場を移して行われた大懇親会では、盛大に盛り上がり、多くの卒業予定者をお祝いすることが出来ました。

（記事：セクレタリー 向井 豪佑）

新理事研修

9月12日(火)、グリーヒルホテル尾道にて、次年度の理事予定者を対象にした新理事研修を開催しました。

本研修では第63代理事長 山北真也先輩を講師にお招きし、ご自身のJC活動、理事長としてのご経験を通じて、「理事としての心構えと自覚」・委員会運営の考え方、各理事の役割等をご講演頂きました。

ご講演の後には、2020年以来となる懇話会を実施し、山北先輩から貴重なお話をしていただくとともに、理事同士の結束を深める事ができました。懇話会では、初理事の皆様から色紙を用いて来年度の意気込みを伝えて頂き、非常に有意義な研修となりました。

本年度も残り4ヶ月。しっかりと本年度を締めくくり、次年度へと繋げて参ります。

（記事：水野 春樹）

2024室合同委員会

9月25日(月)、グリーンヒルホテル尾道にて、2024年度新体制での室合同委員会を開催しました。

小林理事長予定者より、2024年度に向けた熱いメッセージの後、次年度委員会単位での初の委員会が行われました。

委員長予定者は、次年度に向けた方針や熱い想いを、各メンバー一人ひとりに一生懸命伝えていました。

その後開催した懇親会では、新しい委員会メンバーとの親睦を深めながら、2024年度に向けた、いいスタートがきれたのではないかと思います。

今年度も事業がまだまだ盛り沢山ではありますが、しっかりと次年度に引き継いで、尾道のまちとひとのためにお役に立てる活動を、引き続き行ってまいります。

（記事：2024年度セクレタリー予定者 狩野 聡汰）

仮入会員研修

9月22日(金)尾道商工会議所にて仮入会員研修を開催しました。

仮入会員の皆様の円滑な本入会に向けて、JCの組織や三信条や用語説明、ルール・マナー等、多岐にわたっての研修内容でしたが、参加した仮入会員の皆様は、終始緊張した面持ちながらも、真剣に聴き入っていました。

登壇・降壇等の練習の際には、慣れないながらも真剣に取り組んで頂き、仮入会員の皆様にとって、実りのある研修になったのではないかと思います。

仮入会員の皆様が今回の研修により、意気揚々とJC生活の第一歩を踏み出すことが出来るよう祈念いたします。

（記事：渉外局長 村上 康）

ONOMICHIビジネスプランコンテスト キックオフ発表会

9月30日（土）大本山浄土寺にて、ONOMICHIビジネスプランコンテストキックオフ発表会を開催しました。

総勢75組の応募の中から、第一次審査を通過した10組の出場者が、尾道の地に集結しました。

発表に先立って行った、基調講演では尾道造酢株式会社の田中丸善要様をお迎えし、尾道で事業を続けていく上で大切なこと。尾道に根差した事業であることや、チャレンジする精神などを出場者の皆様と共有することが出来ました。

出場者の皆様は、緊張感のある面持ちでご自身のプランを発表されておりましたが、その後のメンターやチューターとのミーティングの時間や交流会では、今のプランの発展や具体的なプランにしていくにはどうするか、しっかりと話をされており、12月10日のコンテストに出場者の皆様のプランが、どうブラッシュアップされてくるのか今から楽しみです。

コンテスト当日は、多くの皆様の御来場をお待ちしています。

（記事：輝くまちづくり推進委員会　亀田 康寿）

卒業生スピーチ

川口 晴康

まずは自己紹介をします。株式会社大住海産で海産物問屋をしております。以前は工場で6年くらい製造、品質管理などを経験し、今に至っております。

前の会社の工場閉鎖を機に就職活動をしようとした際、今の会社で働いていた父親から誘いがあり、従業員として働くようになりました。元々は親族とは違う人が会社経営していたのですが、その後、父親が代表になり、今は私が引き継いで事業を行っております。

JCに入ったのは片岡先輩や本多先輩の紹介がきっかけで、それまでは尾道に住んでいながら、JCのことは一切知らない少年でした。

プロフィール内容の通り、私はJCで一切、役職というものをしておりませんので、JC活動について、良い話をすることはできませんが、JCの思い出を少し話したいと思います。

2018年に父親がガンで亡くなり、それからの対応に追われる日々で、JCに対して前向きになれなかった。というのが本音です。

父親が亡くなった翌年に、とても経営で悩みました。親の真似をして、会社を維持しようと二年間経営をしたら、大赤字。その時にJCのある先輩との飲みの席で、売上は下がっても、収益を改善させるか、売上を維持したまま収益をどうにか回復するかという話を相談しました。すると「もうお前、好きなようにせえ」と、「今の時代、売上を見て苦しむんであれば、売上は下がっても収益を見てもいいんじゃないか」と言われ、そこから会社の方針をガラッと変えました。それから経営は上向き、今に至っております。

私は高校も真面目に行っていませんでしたので、その後大学に行きたいと父親に言っても、「お前なんか行かせるか」と言われました。そんな父親から、大学に行くつもりでJCに入れと言ってもらえ、入会する事が出来ました。入会を進めてくれたことは今でもすごく感謝しています。高校もロクに行かずに、勉強もせず、会社経営は正直しんどかったので、JCで学ぶものは多かったです。

ある日、会社の印鑑を作成するのに、山北先輩に、代表印をもしかしたら変えるかもしれない、父親が亡くなるかもしれないと相談をしました。先輩は、まず亡くなる前に代表を変われと、亡くなってから代表を変えるのは大変だからと教えてくれ、病気の父親を説得し代表権を変えてもらうことにしたことや、会社経営についてJCの先輩たちに相談したり、経営のやり方を聞いてもらったり、赤字を出したとき、島田元太君に「今日は付き合ってくれ」と言い、朝までずっと飲んで、グダグダになったこともあります。また、同期にもすごく恵まれていて、理事をされた方もたくさんいますし、今の同期に巡り合えたことは、本当にこのJC生活の中でもすごく良かったなと思います。

OBにしても、後輩にしても本当にJCというのは、すごい人とつながれる団体だなと思っております。今は個人的なことや会社のことに関しては、JCでの繋がりを大事にし、仕事等を相談しています。父親が亡くなった時も、宗派自体も変えました。僕自身がつながりがないお寺より、信頼できる人に相談したく、武田先輩にお願い致しました。

私はこのJCで信頼してもらえる、相談できる人間になりたいと思い、JC生活を過ごしています。

また、JCに入ってよかったことは、領収書ですかね。僕はもともとサラリーマンです。社長の息子でもないですし、領収書を切ったことはJCに入るまで一切ありませんでした。20歳で結婚して小遣い2万5千円。それにタバコとパチンコで残るお金はほとんどない状態。

こんな僕ですので初めてお客さんと飲んだ支払いの3万円を出す勇気がない…。今では、これまで僕が経験できなかったことを（お金の使い方）学ばせてもらったのがこのJCだと思います。JCで飲んだ時は2万3万を翌日にどうやって会社に利益を出すか、それだけを頑張っています。

　JCは、人と人とのつながりなので、僕が一番嫌なのは嘘です。嘘をついたり約束を守らないとか、あとは時間を守らないとか、そういうのでだんだん人間的に嫌いになっていくことが多々あって、正直、僕は好き嫌いが激しい方でした。嫌いになったらとことん嫌いです。好きな人はとことん好きです。一回好きになったら嫌なことをされても、しょうがないなこいつ、可愛い！と思えます。そこまで腹を割って話す人も少ないかもしれないですけど、そういう「人との付き合い」を上手にしていってもらえたらJC生活も楽しくなるんではないかなと思います。

　あと、皆さんに委員長をした方がいいよとかは言えないんですけど、ずっとフロアーだったからこそ言えることもあります。僕は、夜出るのが週1回までと嫁に言われていました。週2回委員会がある時はどちらかを断ったりしていました。例会・合同委員会があっても断ります。委員会へ行く前は、家事をしていきました。なぜかというと僕の嫁が言うんですね。私は社長の嫁になったつもりはない、と。なので正直、出席率も低いです。でも、今年は最後ということで、嫁と話をして、最後だけは全部行かしてくれ、と理解を得てやっています。だから、もっと早く日程を言ってくれたら別の飲み会を断って予定を合わせられた事とかもあるので、フロアメンバーから言わせてもらうと、早く委員会の案内が欲しいなと思うこともありました。次年度委員長は、その辺はフロアメンバーの気持ちや家庭の事情も考えてもらえたらと思います。

　またJC歴で一番頑張ったのは、最初の幹事の年かなと思います。幹事のときは訳も分からず出ました。委員長、副委員長、幹事しかいない委員会もありましたが、それでも楽しく出れたかなと思います。工藤先輩には、「2年目になったら次の幹事にいろいろ教えてあげていきなよ」と言われ、2年目も少し頑張って出れたかなと思います。拡大の幹事をやってたんで、その年に入ったメンバーとは仲良くなったかなと思いますね。

　3年目ぐらいからだんだんフェードアウトしてくるような感じになってきたんですけど、大西委員長の寺小屋は、今でも思い出に残っています。一言では言えないんですけど、やっぱり子どもの笑顔を見ると、JCをやっていて良かったなと思います。

　あまり大したことをお伝えはできないんですけど、この尾道の知り合いの中で、いろいろ企業経営をするにあたって、人と人とのつながりっていうのは大事だと思いますので、今後とも皆様楽しいJC生活を送って、卒業してもらえればなと思います。

　最後なんですけどJCは世界平和を目指して活動しています。最近ずっと思うことがありまして、世界平和のまず第一歩は、奥さんのご機嫌だと思うので、家族を大事にしながらJC生活を続けてもらえれば幸いと思います。以上、簡単でございますが、私の卒業生スピーチとさせて頂きます。ありがとうございました。

高 升 純

　入会して10年。毎年楽しみに聞いていた卒業生スピーチ。ついに自分の番がきたのかと感じています。

　まず自己紹介ですが、私の名前は高升純。職業は船舶整備。主に船のエンジン整備の会社を営んでおります。25歳の時、学生時代過ごした大阪から帰ってきて、今の仕事をしています。入会のきっかけですが、最初正直、全くJCに興味とか目的とかありませんでした。30歳の時、会社の車を全般的にみてもらっているタカハシ自動車の高橋武也先輩が直前理事長をされていた年で、「もう来年卒業するけど、わしがいる内に入ってくれたらありがたい」と、当時の組織とか知らん私にとっては訳わからない理由で誘われました。

　まあ詳しくは知らんけど、この時がきたんかと思って、当時は特に迷わずに仮入会しました。

　というのもOBの父から、JCのことをなんとなく話を聞いたりしていて「いずれ入らんといけんのんか」と何故か思っていたし、中学生の頃、クリスマス会等に参加したという記憶もありました。

　1年目、仮入会として最初の記憶は、初めて例会に参加させていただいたのですが、内容とかテーマとか正直全く覚えていないです。ただ、例会セレモニーの国歌斉唱からJCソング、クリードとか始まった瞬間に「やばい。騙されとる。こりゃ宗教じゃわ」と思ったこと。

　あと、直前理事長総評で登壇して話されている高橋武也先輩を見て、こんなに人前で堂々と話できるってすごいな。と感じたこと。それだけ覚えています。訳わかってないけど、新入会員ガイダンスとか千光寺山荘での泊りの夏期講習。他いろんな研修など、とりあえず全部出席だけはしていました。

　当時の拡大委員会は池田先輩が委員長で、その委員会メンバーの方も気をつかってくれていて何度もタダ酒をごちそうになり、集まる機会が多かったので自然と同期とすぐ仲良くなれました。

　2年目、ブロック大会実行特別委員会　幹事。

　この年は実行委員長が太田雄介先輩、副実行委員長が川崎耕平先輩と山北真也先輩の委員会でした。ブロック大会を尾道が主催するということの大きさとか凄さとか全然わかっていなくて、言われることについていくばかりでした。資料作りを頼まれたのですが、パソコンを持ってなかったので、急遽買いに行ったのを覚えています。この年一番楽しかったのはJC入会初めての委員会旅行で、大相撲名古屋場所を観戦しその夜は歩けなくなるまで飲みあげたことです。

　3年目、中司委員長のまちづくり推進委員会。

　この年の記憶は海岸通りでのディズニーパレートです。ディズニーの集客力は半端じゃありませんでした。こんな大きいことできるってJCの力ってすごいなってことを感じました。

　次、4年目はセクレタリーをさせていただきました。

　運セクとして活動したのですが、会のトップと一緒に行動させていただきました。この頃はプライベートで大変な時期があって、激ヤセしてストレス性の蕁麻疹とか、正直JCやっとる場合じゃないという状況とかもありましたが、気を使っていただき、なんでも相談にのっていただき救われもしました。理事会や正副に出席し、事業をやるためにはものすごく悩んだ上で構築されているということを目の当たりにし、「参加すること」と「企画すること」の違いを見て、この頃から徐々にJCに対して意識が変わったのを覚えています。

編集後記

　秋が来た！ああ、食欲の秋。体の仕上がり完成度を高めるべく、委員長から檄が飛ぶ。僕も毎日の鍛錬を欠かしません。委員会メンバーにも応援してもらい最近はみんなからも食べる量を調整してもらっています。ああゴールはもう少し。委員会の応援を背に私は進化する。

（記事：沼尾 一）

HP　facebook

5年目、拡大研修委員会 委員長。

大体セクレタリーをやったら、次の年は理事で委員長って流れがあるんですけど、理事会での質問攻めも忙しさも目の当たりにしていたし、会社は現場で出張も多くあって仕事できなくなるのがわかっていたので悩んでいました。でもセクレタリーに選んでくれた太田先輩の顔に泥を塗りたくないという葛藤がありました。その時は自分で選択することができなかったです。

まず当時社長の父親に「会社に迷惑かけたくないから、理事を断ろうと思う」と相談したんですけど、まさかの「委員長せんのんなら理事せんとかじゃなくてJCをやめーや。委員長やらんかったらJC入っとる意味がない」と言われました。

会社の事を一番に考えたつもりでの相談でしたが、まさか真逆の後押しの返事にびっくりし、それならと思い、委員長の職を受けました。

この年の委員会メンバーは副理事長が仏の武田大俊先輩、副委員長が巻幡先輩、幹事が今年委員長の藤田君。内海洋平先輩、中本悠哉先輩、大西君、川口晴君、平岡君、岡本大輔君、高橋建太君。よくここまで集めたなっていうくらいキャラの濃い方ばかりでした。

わかっていたつもりでしたが、委員長の職は想像以上に大変でした。

とにかくパソコンが使えないんですね。なので、上程書とかの資料作りが全くダメでした。

例会は、手作り例会でスクリーンに映るやつがやりたいと言って、文章だけ打ち込んだんですけど、パワーポイントを使うスキルがない。内海先輩にアニメーション付きできれいに作ってもらいました。資料の修正とかはほとんど藤田君に頼んでいました。やらざるを得ない状況に追い込まれたおかげで今ではパソコンも少しはできるようになりました。その年に痛感したのは、自分でできることなんて本当にわずかで、それを実践に移すには本気であらゆる調査と研究が必要なんだなということです。

その年は尾道で豪雨災害があったりして、他委員会では考え抜かれた事業が中止になったりもしていましたが拡大委員会の事業は全て無事に行うことができました。

12月最後の新入会員研修後のアフターで、全ての事業が終わった時、苦しかったことからの開放感とやりきった充実感からなのか、委員会メンバーの前で泣いたのを覚えております。

最高の委員会メンバーに支えられやり遂げることができたのだと思います。

本当にお世話になりました。

6年目、地域活性化促進委員会 副委員長。

大前委員長のまつり委員会でした。

同じ運セクあがりの委員長を盛りあげようと脇役で活動しました。

港まつりでの動物ふれあいブースや本事業の防災イベントを経て絆の深いとても楽しい委員会でした。

7年目、社会開発委員会 委員。

小川直紀先輩のまつり委員会

この頃からはコロナが始まり、思ったことがやりたくてもできなくなってしまったと思います。

本事業は尾道市内小学校での防災の出前授業がとてもよかったと思います。

理事明けだったことと昼間の事業なので仕事を最優先して一度も行けてないですけど。笑。

この年も思い出は、たくさんあるのですが、山本専務が同じ委員会でした。

彼は私が委員長の時の入会で、そろそろ委員長やらんとなって雰囲気があったのですが、投票前に恭平が受かったとしても断るって言っとるって聞いたので喫煙所に説得しに連れて行き、「受かったら絶対やれよ。マジで絶対にやれ、親父に委員長やりたいって言え」って言ったら理事受かってやってくれたのが嬉しかったです。今年に続き来年も大役ですが更に活躍してください。

8年目、副理事長。

安楽城先輩から拝命しました。2周目の理事ということで、また会社に迷惑かかると考えましたが、この時、社長には「副理事長の話があって、やりたいけぇやります。」ともう自分がどうしたいか決めて報告しました。もうコロナがあるのは当たり前。今まで通りではないことにどう対応するのか。そう思っていたら前の年よりも状況は悪く、現役会員から感染者が出てしまったり、事業を開催するのかしないのか。人を集めるんか、そもそも自分達が集まるんか。もう本当にどうすればええんかと、正副では本気でぶつかり合い、寝る間を惜しんで話し合いました。

深夜に吉田雄太君から電話がかかってきて「お前何がしたいんな」と言われ「お前が何したいんな」と本気で話し合いぶつかったりしていました。

委員会単位ではなく尾道青年会議所という組織としてどのような活動をするのか、会のみんなが同じ想いをもって進むにはどうするべきなのか、とそういった視点での活動の経験は非常に大きな成長に繋がったと思います。

拡大の吉田委員長と総務の小西委員長ありがとうございました。

9年目、拡大委員会と監事。

沼尾君の拡大委員会です。沼尾君をJCに勧誘したのは私で、銀行の集まりで若いやつおるわと思い声をかけてJC勧めたら、すぐ入りますって数日後に仮入会申込書をもらいました。拡大ってこんな簡単だったのかって思いました。

沼尾君は本当に手のかかるやつで最初は盛り上げようと積極的に委員会に参加して助けようとしていたのですが、ある日、私がJCで初めて本気で怒った時があって。それから心の距離を置くようにしています。笑。まだまだ先が長いみたいですが、これからも頑張ってください。

監事としては理事会で自由に講評をさせていただきましたが、本当に思うことをストレートに発言させていただきました。

今年、総務広報委員会。

山本専務から最終年はどこの委員会がいいですか?と連絡をいただき、この委員会を選びました。幹事の時にはお世話になりっぱなしだったので最後に委員会メンバーとして近くで恩を返したいと思ったからです。副委員長に沼尾君がいるのはまさかでしたけど。

今年の話は終わった時最後に委員会メンバーにしますので今はまだ控えます。

あと少しの時間ですが予定者は神ということなので引き続きよろしくお願いいたします。

10年を振り返ってお話ししましたが、私がみなさんに伝えたいことが、2つあります。

1つ目は、まず家族、仕事を大事にして欲しいです。家族、仕事は人生の柱だと思います。別にJC入らなくても人生大丈夫です。しかしここにいる皆さんはそれだけじゃないから、今ここにおられるんだと思います。どれだけJCでまちづくりや子どもの為の事業、会社経営の勉強会をしても、JCばかりやって、足元を疎かにするべきではないと私は思います。家族にとって、会社にとってのリーダーは皆さんしかいないはずです。家族、仕事があるからJCができる。その順番を間違えないこと。難しいのはわかっています。難しいことが両立できるよう最大限努力して下さい。その最大限の努力をすることが大事だと思います。

2つ目はもっともっと会員同士で素の付き合いをしてくれたらいいなと思います。

ただスーツ着て集まっていい話を聞いて、すぐ帰ったんじゃそれはできないし私は面白くないと思っています。おってもおらんでも一緒でとか薄っぺらい付き合いじゃ貴重な時間と会費を捨てているだけだと私は思います。JCは異業種の集まりで、会員ほとんどは会社のリーダーばっかりです。今まで自分のコミュニティーでは考えたことない角度で物事を考える人が絶対いるはずです。その人同士が同じ仕事以外の目的に対し知恵を出し、あーでも

ないこーでもないと素での付き合いが友情や義理人情になりお互いの成長に繋がるんじゃないかなと思います。

例会とか事業とか、別に何だっていいですが、それをやるためにどうすればいいのかと一緒に真剣に考える過程とか、楽しい時間、苦しい時間を共有することに価値があると思っています。その方々と素の付き合いをして深めていただけたらと思います。

入会歴の浅い方は積極的に参加してみて、歴の長い方は声をかけて巻き込んでいったらいいんじゃないかなと思います。

最後に。

入会するときは自分の目標もなくて、その後も自分の事しか考えてなかった半端でポンコツな私が、気づけば委員会のこと、組織の事、まちの事とか自分以外のことをどうしようか本気で考えるようになっていました。もう二度と大変でやりたくなかったり、苦しい経験をしたこともすべて今、楽しかった記憶に変わり、少しの成長を感じることができています。

関わった下さった皆様に感謝します。10年間お世話になりました。ありがとうございました。

歌 一行

みなさん、こんばんは。本日は卒業生スピーチという貴重な時間を頂戴しありがとうございます。私がＪＣで経験し、卒業を前に今思うことをみなさんにお伝えしたいと思います。

入会した当初は卒業まで10年。長いなぁと思っていましたが、この場に立ってみると案外あっという間だったなと感じています。今でこそ、専務、副理事長を経験し、今年は監事として理事の皆さんを監督する立場にありますが、入会当時や委員長をやった若い時は全くのダメでした。総務広報委員会に幹事として配属になりましたが、仕事中心でＪＣ活動は蔑ろだったと思います。合同委員会や例会は参加しましたが、その頃は土日も働いていたので、週末の事業とかには全く顔を出していませんでしたし、委員長には不満ばかり言ってました（笑）。そういった人間が理事に受かる訳もなく、理事権が発生した最初の年は落選し、翌年の２０１８年に理事になることが出来ました。でも理事になったからといって今まで疎かにしていた分、右も左も分からず上手く出来ないんですよ。委員会運営もそうだし、委員長として事業構築もなにもかもダメ。最初の事業こそブロックゴルフ大会で規模は大きいものの、型があるのでなんとかやり遂げましたが、それ以降の例会やゆかた会は毎回理事会で延々と質疑の時間となり、胃の痛くなる日々を過ごし、何度も辞めようと思っていました。その当時の事務局長だった島田元太郎君や事務セクだった小林暢玄君には本当にご迷惑をお掛け致しました。その年は仕事やプライベートでも色々なことが起き、理事長予定者であった山北先輩に相談し、２０１９年は折り返し理事を断ったんです。山北先輩は状況を理解してくれ、「でも必ず戻ってきてほしい」と言ってくださいました。翌年以降はフロアーだったんですけど、卒業予定者が太田先輩や山北先輩だったので、最後の一年を楽しく過ごしてもらおうと委員会メンバーみんなで盛り上げるんです（笑）京都会議前乗り。ブロックゴルフ大会前乗り。全国大会は富山だったんですけど、台風が来ていて、サンダーバードが動かないのに大阪に前乗り。飲んでばっかりでした。山北先輩とは家が近かったのもあって毎回の委員会の行き帰り車の中で色々話をしました。コロナが始まった年で中々ＪＣ活動が出来ませんでしたが、沼田委員長の下、12月に緑地帯でバルーンリリース出来たのが良い思い出です。楽しい2年間を過ごす中で、もう一度理事に挑戦してもいいかなーって思い始めるんです。委員長の時は二度とやるかと思っていたのに。その転機を与えてくれたのが安楽城先輩が専務に抜擢してくれたことです。コロナという未知のウイルスで立ち止まざるを得なかった1年目とは違い、2年目はどうすれば一歩を踏み出せるのか葛藤の連続でした。幾度となく緊急事態宣言が発令する中、加藤事務局長がガイドラインを作成してくれたり、形式を変えての開催方法の模索など頭を悩ますことばかりでした。

翌年は副理事長となり、まちづくりの責任者としてＷｉｔｈコロナの中、どうまちを盛り上げられるか、一生懸命考えました。自分が委員長では到底出来ない例会や事業を優秀な委員長・副委員長、フロアーメンバーの皆さんが作ってくれ、私はたまたま担当副理事長だっただけなのに皆さんに担いで頂いたと思います。本当にありがとうございました。

この2年の経験が自身の成長に繋がったと思います。もしそのままフロアーとして過ごしていれば、委員会に参加してアフターに行って飲んで楽しく過ごすだけのＪＣ生活が、責任ある立場として視座を高く考える経験もしましたし、ＯＢ先輩方、他ＬＯＭの方、他団体の方とも交流する機会を与えていただきました。そして最終年は25年ぶりに尾道が主管する地区コン委員会に配属いただきました。卒業予定者としてのんびり過ごせるかなと思っていたんですが、大間違いなんですよ。推進リーダーとして警備の仕事を1から企画書作って下さい！みたいに無茶ぶりするのが副実行委員長の安保君なんですよ。本当に馬車馬のように働かされる…（笑）まぁ、そんな冗談はおいといて、今振り返れば安保君じゃないと地区コンは完遂出来なかったと思います。委員長であれば一つの事業を構築するだけでも大変なのに、式典、フォーラム、たからいち、大懇親会と同じ日に4つも事業をやり遂げたんです。ほんとに寝る間も惜しんで考えただろうし、資料も何百枚と作り上げてた。完璧なんですよ。入り込む隙が無いっていうか…そんな完璧な委員長が委員会を開いてもフロアーメンバーは中々意見が出せれない。今日の合同委員会だって、委員会タイムが30分しかないのに、用意してきた資料が何十ページもあるんです（笑）私がフロアーだった２０１７年の宮地委員長や２０１９年の池田知和委員長の時は、委員長として凄い頑張って部分もあれば、突然電話かけてきて、パワポ使った事ないから資料作ってとお願いされる。そういった弱い部分があるからこそ、フロアーとして頼られていると思えるし助けたいと思う。ＪＣは会社とは違って、給料等で動くのではなく、貸し借りの部分や人間味が人を動かすんだと思います。

長々と10年を振り返り話してきましたが、私が皆さんにお伝えしたいことは、

・継続することが大事。
・理事をするのは当たり前。更なる高みを目指して欲しい。
・人間味がある人になって欲しい。

の3つです。毎年1人とか2人が様々な事情があって退会されますが、私自身何度も辞めようと思いましたが、辞めずに続けていて本当に良かったと実感しています。尾道で商売している以上、どこかで顔を合わす機会はあると思いますし、この先ずっと付き合えるメンバーと巡り合うことが出来たと思います。40歳までと終わりがある団体ですので、ぜひともＪＣ生活を楽しく過ごして欲しいと思います。次に足下の会員数では理事をするのは当たり前になってくるんだと思います。私が入会した10年前は１００人近く会員がいたので、理事になりたくてもなれない状況から、今は会員数が半減し、将来は順番に理事を受けなくてはならない時が来るかもしれません。委員長という役は本当に大変だと思いますが、理事になることは当たり前だと思いますし、副理事長、専務、理事長といった役をぜひ目指して頂きたい。必ず成長する機会を得られると思います。地区コンも終わり、ＪＣ生活も残すところあと4ヶ月。これからは予定者として大切にされながら卒業していきたいと思います。10年間お世話になりました。本当にありがとうございました。